



# あげひばり

サクラの花開く好時季を迎えました  
この時季の象徴とも言えるサクラとは対照的に  
人通りの少ない体育館北西のアスファルトの隙間で咲いている花を発見  
道の真ん中で こんなに堂々と自分らしく咲く花に たくましさを感じました

子どもたちはもちろん 保護者や地域の皆様 そして私たちも  
自分なりの咲き方で輝いていける令和6年度になればいいなと思っています  
この一年間も 地域コミュニティの中心としての湯田小を  
多くの皆様に支えていただき 本当にありがとうございました  
令和6年度も あげひばりたちが 空高く大らかに生き生きと飛び交う湯田小に・・・



この画像は昨年の3月22日のものです

■いよいよ令和5年度も終わりに近づいてきました。コロナ対応に追われ続けた数年が明け、この一年は、いろいろなことがコロナ禍前の水準でのフルスペックで実施できたことは何よりも嬉しいことでした。

■**創立150周年**を迎えた節目の年でもあり、湯田小らしさが随所で発揮された一年だったと思っています。

■**明後日**に卒業を控えた卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうご

ざいます。一人一人違うのが個性、だからその輝き方もそれぞれです。これからも**自分らしさ**を忘れずに、そして、多少の困難には負けない**心の体力**もしっかり身に付けて、中学校でも臆せず力を発揮してってください。ふるさと湯田で学び育った皆さんなら絶対大丈夫！です。湯田小卒に自信と誇りをもって堂々と。湯田小で関わった先生方全員が、陰ながらいつも皆さんを応援しています。

■在校生の皆さん、4月から学年が一つ上がり、新しい教室での一年が始まります。新しい出会いや環境にワクワクドキドキだと思います。「みんな仲よし」「あいさつの声いっぱい」「湯田拭きでピカピカ」・・・こんな湯田小のいいところを当たり前事として、引き継いでいってほしいと思います。来年度も思い出いっぱいの一年に。進級おめでとうございます。

■保護者の皆様をはじめ、地域の皆様、地域諸団体の皆様、この一年間、湯田小と湯田小のあげひばりたち(子どもたち)を総ぐるみで応援していただきありがとうございました。また、PTA活動におきましても、重友PTA会長様をはじめとする皆様には、それぞれのお立場でご尽力をいただいたこと、ありがたく思っています。

皆様とのちょっとした会話の中から、今後の湯田小のめざすべき方向性を見出すことがたくさんありました。この一年間の学校教育に対するご理解、ご協力、ご支援に心より感謝申し上げます。



■大人にとっても子どもにとっても「こんなことをやりたい」と思った時に、「おもしろそうだ。自由にやってみるといい」と言ってくれる人が周りにいる環境があると(つくれると)いいなと常々思っていました。

自由が得られると、自由だからこそ新たな発想が生まれること、自分はもちろん、集団や組織全体に活力が増すこと、自由の裏にある責任を意識するようになること等々、身をもって体感することができます。

この一年も先生方には、「やりたいことがあるなら、子どもたちのためにやるのであれば、自由にやってみるといい。成功すれば自分の宝になる。教師力を磨く実践を・・・」ということを折に触れ伝えてきました。

やりたいことができる環境の中、笑顔で生き生きと子どもたちと関わる教師の存在は、子どもたちにとって欠かすことのできない一番の環境です。

来年度も教職員一丸となって、人間性を磨き、笑顔で子どもたちを迎えたいと思っています。自由さの中で教職員一人一人の独自性や個性、持ち味が生き、生かされる湯田小学校にしていきたいと思えます。すべては子どもたちのために。

## 湯田小のいいところ見つけ! 宝貯金箱

EPISODE 109 ◆宝貯金箱に109の「宝」が貯金できた一年が終わります。学校で起きている日々の小さなドラマの中には、まだまだたくさんの「宝」があったに違いありませんが、私の目から見た「いいところ見つけ!」だけでも109の「宝」を見つけることができました。

明後日卒業する卒業生も含めると、明治6年の創立以降の卒業生は 20,184人となり、昭和20年以降の卒業生は 11,999人となります。この数を見ただけでも湯田小の長き歴史を感じます。これまでに脈々と引き継がれてきた湯田小の伝統、風土、校風など、その中で大切にされてきたことが令和の時代になっても息絶えることなく受け継がれ、今日に至っていると思います。

教職員も含む湯田小教育に関わってくださっている、また、これまでに関わってこられた多くの人財こそ湯田小の大切な「宝」です。

■エピローグ・・・たった1枚の紙切れでしたが、この「あげひばり」のことがきっかけで、いろいろな方との会話が始まることも多々あり、たくさんの方に読んでいただけたことに改めて感謝申し上げます。駄文が多く、センスのなさも露呈してしまいましたが、自由に、気ままに、話をするように、楽しみながら書き綴ってきたので長続きできました。次々と登場してくる教育改革の流行語に振り回されずに、これからも借り物ではない自分の言葉、教育を語る自分の言葉を失わないようにしていきたいと思えます。一年間ご愛読いただき、本当にありがとうございました。